

日本社会科教育学会

第68回全国研究大会（奈良大会）プログラム

大会主題 奈良から発信、日本へ世界へ

期 日 2018（平成30）年11月3日（土）・4日（日） ※関連行事は2日（金）

会 場 奈良教育大学（〒630-8528 奈良市高畑町）

主 催 日本社会科教育学会 日本教育大学協会全国社会科部門

後 援 奈良教育大学 奈良県教育委員会 奈良市教育委員会
奈良県小学校教科等研究会社会科部会 奈良県中学校教科等研究会社会科部会

日 程

第1日目 11月3日（土）

8:30 9:30 12:00 13:30 16:00 16:10 17:10 17:30 19:30

受付	自由研究発表Ⅰ	昼食 評議員会	シンポジウム	休 憩	総会	移 動	懇親会 (大学生協)
----	---------	------------	--------	--------	----	--------	---------------

第2日目 11月4日（日）

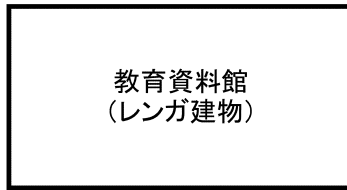
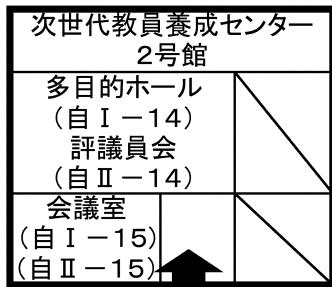
8:30 9:00 12:00 13:00 15:30

受付	自由研究発表Ⅱ	昼食	課題研究発表
----	---------	----	--------

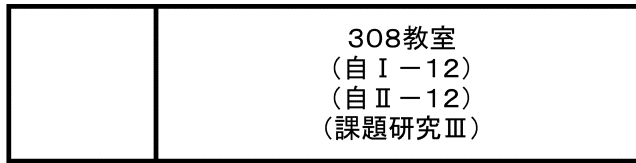
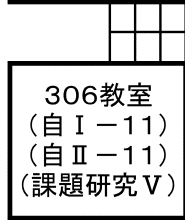
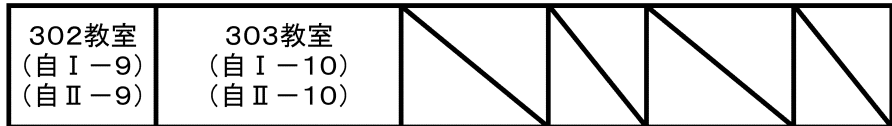
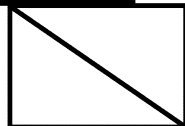
関連行事

公開授業 2018年（平成30）年11月2日（金）
会 場 奈良教育大学附属小学校（大学構内）
内 容 学びを深める問いに着目した社会科学習 「日本の工業－小学校5学年の実践－」
受 付 13:15～13:40
授 業 13:45～14:30
研究協議 14:35～15:20

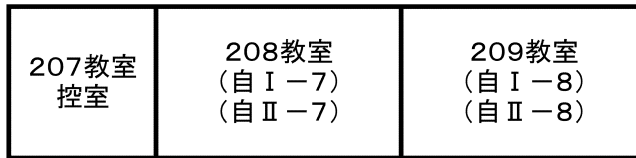
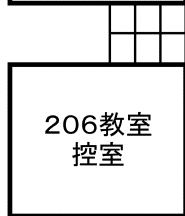
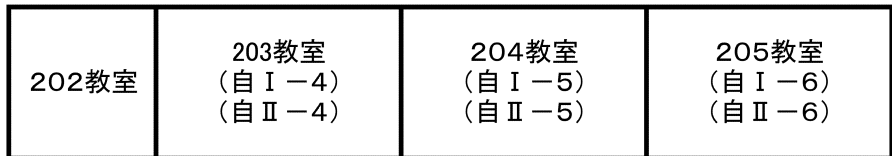
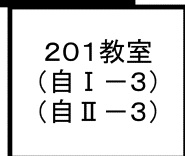
会場図



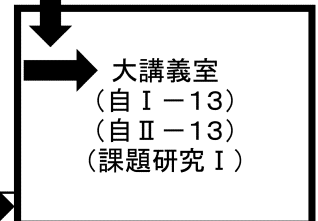
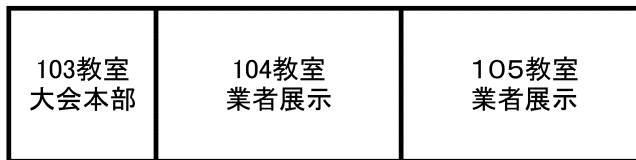
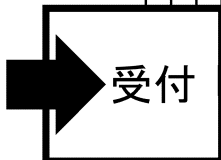
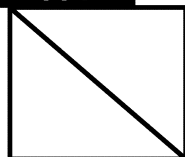
3階



2階



1階



講堂へ

スロープ

第1日目 2018(平成30)年11月3日(土)

自由研究発表Ⅰ 9:30~12:00

自由研究発表Ⅰ—第1分科会 (101教室)

司会者 横浜国立大学 鈴木 允
兵庫教育大学 吉水 裕也

- (1) 小学校中学年において「身近な地域認識」を深めるための授業に関する研究
—第3学年「町の様子」における地域学習を事例として—
福島県矢祭町立矢祭小学校 久野 雄平
- (2) 双方向のコミュニケーション手段としての地図の活用をめざす小学校社会科の授業開発
畿央大学 小谷恵津子
- (3) 子供が問いを持ち、追究し続ける社会科授業
—「主体的に学ぶ姿」を目指して—
宮城教育大学附属小学校 前田かおり
宮城教育大学附属小学校 三浦 秋司
- (4) マインドマップを活用した社会科授業
—第5学年身のまわりの情報・第3学年わたしのまちの実践を中心として—
香川県宇多津町立宇多津小学校 河野 富男
- (5) 問題解決学習を創出した社会科授業研究の論理と方法
—愛知県新城市立新城小学校の「授業研究システム」を手がかりに—
愛知東邦大学 白井 克尚

自由研究発表Ⅰ—第2分科会 (102教室)

司会者 愛知教育大学 土屋 武志
鹿児島大学 溝口 和宏

- (1) 歴史教育における「非実証的歴史学」の成果の利用をめぐって
—インターネット言説を中心とする批評的考察—
向野堅一記念館・県立所沢西高校 向野 正弘
- (2) 「20世紀の歴史」における内容解釈の可能性
早稲田大学 遠藤紳一郎

- (3) 中学校歴史的分野における社会認識形成を通じた市民的資質育成の在り方について
—高山右近（日本の中世から近世への移行期）を題材として—
富山大学大学院・富山大学附属中学校 坂田 元丈
- (4) 学習者の振り返りを踏まえた、社会科歴史授業の改善
住田町立世田米中学校 細川 遼太
- (5) 戦後史の学習をどのように構成する—人物からオリンピックへ—
北海道教育大学 田山 修三

自由研究発表Ⅰ—第3分科会 (201教室)

司会者 国士舘大学 加藤 公明
筑波大学 國分 麻里

- (1) 多様な見方・考え方を引き出す歴史セルフディベートの意義
—IB校における中学校社会科歴史的分野での授業実践を事例に—
中央大学大学院 津山 直樹
- (2) テキストマイニングを援用した歴史的思考力測定の試み
—高校世界史分野における論述分析から—
立教新座中学校・高等学校 荒井 雅子
- (3) 中学校社会科歴史的分野におけるグローバル・ヒストリー導入についての一試案
福島県南会津町立田島中学校 大橋 信
- (4) 自由民権結社「北海道学友会」を通して描く北海道の自由民権運動
—歴史教育と歴史学研究の有機的連関—
北海道恵庭南高等学校 國岡 健
- (5) 市民的資質育成のための歴史的エンパシーの研究
—社会科教育における「共感」の再検討—
京都教育大学大学院 弘田 真基

自由研究発表Ⅰ—第4分科会 (203教室)

司会者 宇都宮大学 熊田 禎介
桜美林大学 田中 暁龍

- (1) 歴史教育における英語の活用について
—英会話・英文による問いかけ及び英訳文の活用を中心に—
新潟県立新発田高校 竹田 和夫

- (2) 歴史的事象の特性を基盤とした社会科における必修単元「シティズンシップ」の開発
 ー小単元「武士身分とは何かー最後の仇討ちー」及び小単元「ギリシア人とは誰かーギリシア人自身による概念変容とマケドニア王家の喧伝ー」を事例としてー

千葉大学 戸田 善治
 千葉大学 竹内 裕一
 千葉大学 澤田 典子
 千葉大学 小関悠一郎
 千葉市立打瀬中学校 椎名 和宏

- (3) 歴史授業において対話を促す教師の働きかけ
 ー中学校歴史授業における教師の発話分析を通じた探索的研究ー

筑波大学大学院 植原 督詞

- (4) 子どもに歴史の有用性を感じさせる歴史学習の研究
 ー歴史の教訓に学ぶ授業の開発と実践を通してー

高水高等学校・同附属中学校 西村 豊

- (5) 一人ひとりが自分の思いや価値を言葉にして語り合い、仲間と聴き合う授業を目指して
 ー「私たちの学校と戦争」の実践を通してー

東京学芸大学附属世田谷小学校 松本 大介

自由研究発表Ⅰー第5分科会 (204教室)

司会者 埼玉大学 桐谷 正信
 皇學館大学 深草 正博

- (1) 「文明」概念を再考させる授業についての一考察
 ー南米アンデス地域の事例を用いた実践からー

早稲田大学高等学院 森下 壽典

- (2) 社会科における海洋教育の構想ー「海とのかかわり」から再考するヨーロッパ中心主義ー

東京大学 加藤 大貴

- (3) 異文化理解を促す探究的な歴史授業の開発
 ー高等学校世界史B「イスラーム世界とヨーロッパ中世世界の関わり」ー

東京学芸大学附属国際中等教育学校 山本 勝治

- (4) ホロコースト教育のペダゴジーー追体験を通じた歴史教育の試みー

筑波大学 柴田 政子

- (5) 問い直される歴史の学びとその認識ー「観光」と「歴史」を連関させた授業実践の視座からー

東洋大学 須賀 忠芳

自由研究発表Ⅰ—第6分科会 (205教室)

司会者 高千穂大学 鈴木 隆弘
東北学院大学 坪田 益美

- (1) 論争問題に対する子どものコモングラウンド形成に関する研究
—ナショナルイシューズフォーラムズの活動を参考にして—
上越教育大学 中平 一義
- (2) 市民としての主体性を高める中学校社会科授業における課題設定の在り方に関する一考察
—正統的周辺参加論をアプローチとして—
神崎市立神崎中学校 野田 英樹
- (3) ケアする市民の育成をめざすシティズンシップ教育の構築に向けて
—「ケアされる人」という自己認識の形成を基盤に—
常葉大学 鎌田 公寿
- (4) 「正義」を志向する市民の育成—R. C. Wadeらの教育理論を手がかりとして—
筑波大学大学院 後藤慎太郎
- (5) 主権者教育の基礎づけとしての考察—ハンナ・アレントの政治理論を足場として—
佐賀大学 佐長 健司

自由研究発表Ⅰ—第7分科会 (208教室)

司会者 京都橘大学 倉持 祐二
三重大学 永田 成文

- (1) 中学校歴史的分野と公民的分野の接続を意識した平和教育の在り方
—特設単元「ヒロシマからニジュール」を題材とした教材開発—
守谷市立御所ヶ丘中学校 土屋 啓一
- (2) 戦争体験「語り」の継承と「次世代の平和教育」(3)
—くにたち原爆体験伝承者育成プロジェクトを事例として—
秋田大学 外池 智
- (3) 平和教育における「語り部」の役割—長岡市立南中学校の実践を例に—
上越教育大学大学院 久保 雄大
- (4) 命の教育プロジェクトにおける原発問題の位置付けとホームページの構築
北海道教育大学 井門 正美

(5) 福島第一原発事故に向き合う教師のライフヒストリーと教材化の可能性

茗溪学園中学校高等学校 前嶋 匠

自由研究発表Ⅰ—第8分科会 (209教室)

司会者 金沢学院大学 小嶋祐伺郎
中央大学 森茂 岳雄

(1) 拡張による学習としてのアンラーニングを指導する社会科授業の検討

山口大学 田本 正一

(2) 体験的な活動を踏まえた社会科授業実践

鳴門教育大学 井上 奈穂

(3) 私たちはどのように市民育成者になっていくのか

—分野・学校種・環境の異なる人々のフォーマル／インフォーマルな学びに注目して—

山梨大学 後藤賢次郎

(4) 「探究」の対話を位置づけた社会科ワークショップ型授業の開発

山形大学 江間 史明

(5) 財政の持続可能性を考察・表現する授業実践

—専門家・関係機関と連携した学習活動の取り組み—

名古屋市立はとり中学校 佐藤 央隆
愛知教育大学 真島 聖子

自由研究発表Ⅰ—第9分科会 (302教室)

司会者 上越教育大学 茨木 智志
東京学芸大学 渡部 竜也

(1) 小学校教員養成課程における社会科授業マネジメント力向上の取り組みについて

—「知識構成型ジグソー法」の手法を用いた授業実践を中心に—

兵庫教育大学 井上 敏孝

(2) 「くらしと人権（人権概論）」履修者580名の論述試験からみる人権問題への意識変革と社会科既習事項との関連性を分析して

—大学4年間・3学部で進めた「全員参加型・AL授業」の成果に立って—

甲南女子大学・非 立命館大学・非 間森 誉司

- (3) 大学生の政治意識についての分析
—系統的な社会科カリキュラムに向けて—

宮城教育大学大学院 横山奈緒子
宮城教育大学 吉田 剛

- (4) 地域課題の解決をテーマにした参加型学習の実践的課題
—問題解決的な学習活動と育成を目指す資質・能力—

宮崎大学 吉村功太郎

- (5) 大学生による主権者教育出前授業
—「信州投票率上げようプロジェクト (STAP)」の実践から—

信州大学大学院 阿部 将大
信州大学 松本 康

自由研究発表 I —第 10 分科会 (303 教室)

司会者 和歌山大学 岩野 清美
山梨大学 服部 一秀

- (1) 比較から問いを生む小学校社会科学習
—資料提示の工夫による子どもの問題意識の醸成—

北海道教育大学附属札幌小学校 河原 秀樹

- (2) 交渉能力の育成をめざす中学校社会科授業

釧路市立北中学校 池田 泰弘

- (3) 学習意欲を高める新聞活用学習の開発

標茶町立標茶中学校 林 祐史

- (4) 未来を切り開く社会科授業

南魚沼市立八海中学校 仙田 健一

- (5) 国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成を担う生徒の育成 V

東京都中央区立銀座中学校 種藤 博
東京都葛飾区立亀有中学校 詰田 剛也

自由研究発表 I —第 11 分科会 (306 教室)

司会者 日本大学 奥田 智
滋賀大学 岸本 実

- (1) 「多数決の原理とその運用の在り方」に関する指導 IV

江東区立第二亀戸中学校 仲村 秀樹

(2) 生徒の「問い」で設計する有権者教育Ⅱ

千葉県立津田沼高等学校 杉田 孝之

(3) 高校3年生の政治意識

—親・教育・メディアからの影響を考える—

上宮高等学校・関西大学 田中 智和

(4) 社会的論争問題を通して「政治的リテラシー」を涵養する

—「判断の基準」を練り上げる—

お茶の水女子大学附属小学校 佐藤 孔美

(5) 社会科を学ぶ意味について考えさせる評価と授業デザイン

東京学芸大学附属小金井小学校 岸野 存宏

自由研究発表Ⅰ—第12分科会 (308教室)

司会者 帝京大学 鎌田 和宏
兵庫教育大学 關 浩和

(1) グローバル化した社会を学ぶ小学校社会科学習

—第3学年「杉並区の移り変わり」の実践を通して—

越谷市教育委員会 長谷川裕晃
杉並区立天沼小学校 新宅 直人
小金井市教育委員会 田村 忍
新宿区立鶴巻小学校 糟谷 友子

(2) グローバル化した社会を学ぶ小学校社会科学習

—第6学年「グローバル化する世界と日本の役割」の実践を通して—

東京都教育庁指導部 秋田 博昭
豊島区立目白小学校 生沼 夏郎
東京都教育庁指導部 辻 慎二
府中市立府中第四小学校 向井隆一郎

(3) 価値判断力や意思決定力を育成する社会科授業の開発

—小学校6年生「憲法第9条の改正について考える」授業を通して—

筑波大学附属小学校 梅澤 真一

(4) 「社会的な見方・考え方」を育成する社会科授業の構成に関する研究(2)

静岡市立横内小学校 金澤 翔平

(5) 多角的なものの見方を育成するアナザーストーリーの社会科授業

—5年生「森は海の恋人」の実践から考える—

筑波大学附属小学校 粕谷 昌良

自由研究発表Ⅰ—第13分科会 (大講義室)

司会者 日本女子大学 田部 俊充
京都教育大学 山下 宏文

- (1) さっぽろ雪まつりにおける市政の取組から地域の活性化を見出す教材開発
札幌市立屯田北小学校 朝倉 一民
- (2) 世界遺産の視点を活用した社会科文化学習における「主体的・対話的で深い学び」の実践
清和大学 小松 伸之
- (3) 教科横断的な学習で進める小学校5・6年向け観光の授業
—客層に応じた旅行商品と観光地特性を思考するツールを用いて—
玉川大学 寺本 潔
- (4) 地域協働型学習の評価・改善に関する実証的研究
—総合的な学習「宇治学」第6学年『『ふるさと宇治』の魅力大発信』の質問紙調査の分析—
京都文教大学 橋本 祥夫
京都文教大学 澤 達大
京都文教大学 寺田 博幸
京都文教大学 森 正美
京都文教大学 鵜飼 正樹
- (5) 社会科学習における地域教材の効果的利用に関する研究
—5年「環境を守るわたしたち」におけるまちづくり的社会科の視点を取り入れた単元設計と教材化—
同志社小学校 長瀬 拓也

自由研究発表Ⅰ—第14分科会 (次世代教員養成センター2号館多目的ホール)

司会者 東洋大学 栗原 久
三重大学名誉教授 山根 栄次

- (1) 中等教育の公民的分野における消費者教育の学習プログラム開発
—日本とイギリスの教科書分析を手がかりとして—
信州大学 田村 徳至
- (2) 学校における金融経済教育の現状と課題
—関係諸機関等との連携・協働の事例—
日本証券業協会 船岡 和正
鳴門教育大学 西村 公孝

- (3) 学問の論理と社会問題学習の相克をはかる経済学習の構造
—社会改造主義によるカリキュラム調整を手がかりに—

北海道北見北斗高等学校 山崎 辰也

- (4) 労働問題を通じた公民的資質の育成
—他者の話にじっくり耳を傾ける主体的な学び—

東京学芸大学附属高等学校 楊田 龍明

自由研究発表Ⅰ—第15分科会 (次世代教員養成センター2号館会議室)

司会者 常磐大学 大高 皇
広島大学 棚橋 健治

- (1) 高等学校公民科における出生前検査を事例とした意思決定型学習の開発研究
—オタワ意思決定支援ガイドと決定に関する葛藤尺度を応用して—

新潟大学 田中 一裕

- (2) 歴史的スキルとしての共感
—SHP イギリス歴史教科書と問いの位置付け—

愛知教育大学 杉浦 美香

- (3) 歴史的エンパシーにおける情意 (affective) 面の役割とその対象に関する研究
—英米の調査研究を手がかりとして—

筑波大学大学院 山村 向志

- (4) 地理学習における持続可能なトライアングルモデル活用の可能性
—諸外国における活用事例の検討から—

兵庫教育大学 阪上 弘彬

昼食 12:00~13:30

大会参加 (事前登録) 申込フォームにて申し込まれ、振込が完了された方には、弁当を受付付近にてお渡しします。

評議員会 12:00~13:30 (次世代教員養成センター2号館多目的ホール)

シンポジウム 13:30～16:00 (講堂)

社会科における文明の取り扱い

[趣旨]

私たちは、高度文明社会の中で生活していると言われます。その文明については、人文・社会諸科学や自然科学などさまざまな分野で研究がなされています。教科・科目では、主に社会科や社会系教科・科目で扱われています。たとえば、現行の中学校社会科歴史的分野のある教科書では、「世界各地で生まれる文明」に中国文明、インダス文明等を挙げ、主に紀元前の世界の動きについて記述しています。日本の明治維新に関する単元では「欧米の文化や生活様式が取り入れられ、・・・文明開化が進みました。」といった記述も見られます。

しかし、文明とは何か？その本質をどう考えたらよいか？歴史的淵源は？など本学会では、これまで十分な議論はなされていません。また、諸学問分野では文明に関する研究は盛んですが、歴史的分野および世界史以外の社会科や社会系教科・科目では文明について取り上げることはほとんどありません。そこで本シンポジウムでは、文明に関して多角的な論点から議論を交わし、社会科教育の活性化に寄与したいと考えています。

古来より、ユーラシア大陸各地の文明の影響を受けてきた奈良の地は、こうした議論を交わすのに相応しい地であると考えられます。

コーディネーター 奈良教育大学 岩本 廣美
兵庫教育大学 米田 豊

シンポジスト・テーマ

(1) 高等学校で教えられた世界史は欧米人の世界史だった

立命館大学環太平洋文明研究センター 安田 喜憲

(2) 世界史は「文明」をどのように語ってきたか、これから「文明」をどのように語るべきか

目白大学 田尻 信壹

(3) 社会科における「文明」の取り扱いー太平洋の視点を導入するー

帝京大学 中山 京子

(4) 「文明」を視点とした小学校社会科授業モデルの開発

ー「循環型・持続型文明社会」の構築をめざしてー

愛知県弥富市立日の出小学校 植田真夕子

コメンテーター 滋賀大学 原田 智仁

総会 16:10～17:10 (講堂)

懇親会 17:30～19:30 (大学生協食堂)

第2日目 2018(平成30)年11月4日(日)

自由研究発表Ⅱ 9:00~12:00

自由研究発表Ⅱ—第1分科会 (101教室)

司会者 国立教育政策研究所 二井 正浩
東京学芸大学 日高 智彦

(1) 高校歴史教育における博物館展示のメタヒストリー学習

山梨大学 服部 一秀
山梨大学大学院 関戸 宏樹

(2) 地域社会の中の歴史に関するメタヒストリー学習
—小学校社会科における「県民の日」の授業—

上野原市立上野原西小学校 佐藤 貴史
山梨大学 服部 一秀

(3) 需要と供給の概念を組み込んで社会認識の深化をめざす小学校歴史学習の開発
—第6学年「大正時代の米価上昇」を事例として—

西宮市立名塩小学校 松浪 軌道

(4) 「変だなあ」探しと社会認識の形成—千葉県歴史教育者協議会の実践に学んで—

牛久市立神谷小学校 石上徳千代

(5) 小学校中学年社会科における地域開発単元の改善に関する研究
—思考場面としての身近な地域の歴史素材を活用した実践を通して—

上越教育大学大学院・福島県喜多方市立塩川小学校 山内 清央

(6) 四日市の初期「公害教育」の考察

四日市公害と環境未来館 井川 和道

自由研究発表Ⅱ—第2分科会 (102教室)

司会者 畿央大学 小谷恵津子
千葉大学 竹内 裕一

(1) 子どもの「問い」を重視した地図の指導
—第三学年「わたしたちの板橋区」の学習を通して—

東京都板橋区立板橋第十小学校 丸野 陽子
立正大学 石橋 昌雄

(2) 日本の技術を生かした「ものづくり」に関するカリキュラム開発—段ボール箱まぐらの開発—

立正大学 石橋 昌雄
東京都板橋区立板橋第十小学校 丸野 陽子
東京都板橋区立板橋第十小学校 下采 紅葉
東京都板橋区立板橋第十小学校 橋之口清美
東京都板橋区立成増ヶ丘小学校 大塚 夏海
東京都板橋区立成増ヶ丘小学校 石嶺 匡

(3) 日本の技術を生かした「ものづくり」に関するカリキュラム開発—おもしろスプーンづくり—

東京都清瀬市立清瀬第三小学校 川久保好子
東京都板橋区立板橋第十小学校 飛騨野安位
東京都板橋区立板橋第八小学校 成田香穂里
東京都板橋区立板橋第十小学校 吉田 隆志
東京都板橋区立板橋第八小学校 野原 香織
立正大学 石橋 昌雄

(4) 社会的事象の見方・考え方を働かせて追究する単元構成の工夫

—第6学年「日本国憲法と私たちの暮らし」の実践—

中野区立新井小学校 杉渕 尚
江東区立南陽小学校 島川 浩一
中野区立美鳩小学校 佐藤 民男
東京都教職員研修センター 國長 泰彦
清瀬市教育委員会 西山 智
府中市立日新小学校 長坂光一郎
渋谷区立長谷戸小学校 川原 和茂
東京都教育庁指導部 山崎 禎久

(5) 小学校社会科における実感的な学び (8)

東京学芸大学附属小金井小学校 根本 徹

(6) 問いの機能を活かした中学校社会科の授業開発

—「社会的な見方・考え方」の活用に着目して—

兵庫教育大学大学院 安永 虎吉

自由研究発表Ⅱ—第3分科会 (201教室)

司会者 早稲田大学 小林 宏己
広島大学 渡邊 巧

(1) 社会科学習に対する教師・生徒の意識の実態

—山口県防府市野島を事例として—

専修大学松戸高等学校 泉 貴久

- (2) ゲーム教材を活用したアクション・リサーチにおける地歴科教師の育ち
—教師の語りに基づいて—

神戸大学大学院 馬場 大樹

- (3) 小学校5年生社会のグラフ資料の読解における教師の発話に関する考察

東北学院大学 佐藤 正寿
東北大学大学院 堀田 龍也

- (4) 社会科教師教育者は駆け出し教師の成長をいかに支援しうるか？

—米国社会科における「Rationale Development」と「Reflection」に注目して—

徳山大学 大坂 遊
広島大学 渡邊 巧

- (5) 社会的な課題を教材化する教師のライフストーリー

—教師自身が切実さを形成する経緯に着目して—

静岡大学 村井 大介

自由研究発表Ⅱ—第4分科会 (203教室)

司会者 北海道教育大学 坂井 誠亮
宮崎大学 吉村功太郎

- (1) 公民的資質の「時間差評価」の意味
—GRITスコアの有効性の検討—

名古屋産業大学 竹澤 伸一

- (2) 振り返り場面における「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法の開発
—生徒の記述分析をとおして—

鳥取市立湖東中学校・兵庫教育大学大学院 大島 泰文

- (3) パフォーマンス評価を軸とした中学校社会科単元設計
—社会科としての学びと生活経験の結びつきと深化—

府中市立府中第四中学校 岩瀬 公輔

- (4) 政治的リテラシーの構造と評価法

信州大学 松本 康

- (5) アメリカ社会科における「社会的・情動的学習」の評価の方法
—M. E. McGuire のストーリーパスを事例に—

筑波大学大学院 早瀬 博典

自由研究発表Ⅱ—第5分科会 (204教室)

司会者 帝京大学 中山 京子
立命館大学 森田 真樹

(1) 社会参画意識を育む小学校社会科授業

—身近な地域と他地域を問いでつなぐ単元構想—

浦安市立美浜北小学校 中谷 佳子

(2) 意志決定能力を育成する協働提案型小学校社会科授業モデル

関西福祉大学 小野間正巳

(3) 社会的事象の意味を多面的に考える社会科学習を目指して

東京学芸大学附属世田谷小学校 宮田 浩行

(4) 小学校社会科における思考力・実践力の育成

—第4学年「水はどこから」の実践を通して—

柏崎市立大洲小学校 栗田 明典

(5) シティズンシップとしての合理的意思決定力を育成する初等社会科の単元構想

常葉大学大学院 大橋 拓弥

(6) 低学年における態度変容を促す論争問題学習

—リフレクションを活かした授業作りを通して—

お茶の水女子大学附属小学校 岩坂 尚史

自由研究発表Ⅱ—第6分科会 (205教室)

司会者 東京学芸大学 荒井 正剛
近畿大学 戸井田克己

(1) 国土認識を深める学習実践から見える地図指導の課題

日本大学 宇野 彰人
東京都葛飾区立水元中学校 東野 茂樹
東京都足立区立六月中学校 臼田 亜希

(2) 日本の国土像に関する教材開発論的一考察

群馬大学名誉教授 山口 幸男

(3) 地理的概念と思考スキルを育成する小学校社会科の授業改善

仙台市立台原小学校 管野 友佳

(4) 地理教育における「学習スタイル」の可能性—生徒理解の方策として—

筑波大学大学院 Yang JaYeon

(5) アメリカの社会科における地理的技能の育成方法

—スタンダード・教科書・指導書の記述の関連性を通して—

名古屋学院大学 國原幸一郎

(6) 地理的思考力のありか—センター試験「アニメ」問題再考—

名古屋大学大学院 鬼頭 孝佳

自由研究発表Ⅱ—第7分科会 (208教室)

司会者 秋田大学 外池 智
帝京大学 野口 剛

(1) 大衆文化に焦点を当てた戦後史学習の試み

—民衆の心情をどう伝えていくか—

平群町立平群中学校 森口 洋一

(2) 指導者用デジタル教科書を活用した社会科学習指導法の再構築

—小6単元「明治の国づくりを進めた人々」を事例にして—

京都女子大学 松岡 靖
京都女子大学大学院 小谷穂乃茄

(3) 歴史日記「文明開化」による中学生の主体性の開発

—歴史認識の過程を探る—

新潟市立石山中学校 小林 朗

(4) 生徒が書く「歴史日記」の意義と可能性

—小林朗の実践を通して—

桜花学園大学 松永 康史
弘前大学 中妻 雅彦

(5) 生徒の現実に応える中学校歴史学習の可能性

—小林朗の「歴史日記」実践を通して—

弘前大学 中妻 雅彦
桜花学園大学 松永 康史

(6) 歴史学習における解釈と真正の学びに関する一考察

—壘田永年私財法の歴史的評価をめぐって—

香川大学 鈴木 正行

自由研究発表Ⅱ—第8分科会 (209教室)

司会者 静岡大学 磯山 恭子
福井大学 橋本 康弘

(1) 地域の課題解決から考える主権者教育

明治大学 藤井 剛

(2) 主権者を育む公民科授業の開発研究

—ハーバーマスのコミュニケーション理論を授業原理として—

佐賀県立佐賀北高等学校・佐賀大学大学院 江島 薫

(3) 定着と行動に着目した主権者教育に関する一考察

—高校3年間の行動変容を視野に入れたカリキュラム構築—

神奈川県立三浦初声高等学校 金子 幹夫

(4) 高等学校における主権者教育

—県立高校における事例研究及び高校生有権者アンケート調査結果を踏まえて—

日本大学 奥田 智
奈良県立教育研究所 石井 宏典

(5) 柳田民俗学の知見を活かした主権者教育

—選挙の祝祭性に注目した授業の試み—

上智大学・非 新井 明

(6) 社会に開かれた教育課程の実現に向けた取り組みに関する一考察

—雲南市教育魅力化推進事業を事例として—

愛媛大学 井上 昌善
認定NPO法人カタリバ 岡島 春恵

自由研究発表Ⅱ—第9分科会 (302教室)

司会者 東京学芸大学 川崎 誠司
青山学院大学 水山 光春

(1) 社会問題学習における「問題の主題化」の重要性

埼玉大学大学院 原 優菜

(2) 自ら哲学的に考える「倫理」カリキュラムの構想

—「哲学的な考え方カード」の活用を軸として—

静岡県立浜松大平台高校 増本 真也

(3) 倫理「日本の思想」へのアプローチ(8)

—中世民衆の宗教観と共同体のあり方を手掛かりにして—

岐阜県立不破高等学校 大橋 弘志

(4) 形成的アセスメントを取り入れた授業開発

—プラトン初期対話篇『ラケス』を教材にして—

北海道高等学校「倫理」「現代社会」研究会・北海道岩見沢東高等学校 佐藤 克宣

(5) 高校探究科目における生命倫理・人権教育の授業実践

—大阪暁光高校「教育・人間探究の時間」の事例報告—

大阪暁光高等学校 和井田祐司

(6) いじめ早期発見に貢献してくれる第三者—いわゆる傍観者—の活かし方

東京都市大学 長野 雅弘

自由研究発表Ⅱ—第10分科会 (303教室)

司会者 山形大学 江間 史明
弘前大学 篠塚 明彦

(1) 模擬体験を取り入れた小学校社会科政治学習の実践研究

宮城教育大学 吉田 剛
仙台市立北六番丁小学校 星 博子

(2) 民意を反映する選挙のあり方を考える社会科学習

—「当事者性」の涵養を意識しながら—

お茶の水女子大学附属小学校 岡田 泰孝

(3) 法教育の視点から捉え直すワークルール教育

南足柄市立岡本中学校 村上 揚

(4) 模擬選挙の実践報告

千葉県立白井高等学校 小島江津子

(5) 歴史的事象から迫る選挙権を持つことの意味と条件

—高校「公共」の単元開発「選挙権付与の基準を考える」を事例として—

亜細亜大学 三浦 朋子
亜細亜大学 今津 敏晃
亜細亜大学 青山 治世

(6) 教科書の中の憲法制定権力について

聖徳大学 小田桐 忍

司会者 宇都宮大学 溜池 善裕
広島大学 永田 忠道

(1) 生活科における市民性の育成

東京学芸大学連合大学院 齊藤 和貴

(2) 幼稚園教育と接続し、アクティヴ・ラーニングを生かした生活科・社会科の単元構想の工夫

高岡市立能町小学校 筏井 弘毅

(3) 社会的事象の見方・考え方を働かせて追究する単元構成の工夫

—第3学年「横浜市の移り変わりと人々の生活の変化」の実践—

小金井市教育委員会 田村 忍
横浜市立戸部小学校 武藤由希子
横浜市立西富岡小学校 西川 健二
横浜市立瀬ヶ崎小学校 梅田比奈子
青梅市立霞台小学校 森 清隆
八王子市立散田小学校 島田 学
大田区教育委員会 木下健太郎

(4) 社会的事象の見方・考え方を働かせて追究する単元構成の工夫

—第4学年「自然災害から人々の暮らしを守る」の実践—

東京都教育庁指導部 辻 慎二
台東区立忍岡小学校 大下 尚子
文京区立関口台町小学校 相原 雄三
台東区立忍岡小学校 吉藤 玲子
東京都教育庁指導部 秋田 博昭
越谷市教育委員会 長谷川裕晃

(5) 社会的事象の見方・考え方を働かせて追究する単元構成の工夫

—第5学年「工業生産を支える貿易と運輸」の実践—

八王子市教育委員会 北川 大樹
新宿区教育委員会 北中 啓勝
江東区立東砂小学校 清水 隆志
東京都教育委員会 児玉 大祐
新宿区立四谷小学校 石井 正広
足立区立中川小学校 加藤 雅弘

(6) 地域社会の一員としての自覚を養う社会科の探究

—地域を教材とした授業開発を手立てとして—

新潟大学大学院 星 雄馬

自由研究発表Ⅱ—第12分科会 (308教室)

司会者 広島大学 草原 和博
桐蔭横浜大学 谷田部玲生

- (1) 主権者教育からみた高校公民科「現代社会」から新科目「公共」への課題と期待
鳴門教育大学 西村 公孝
- (2) 新科目「公共」の授業モデル開発
広島大学附属中・高等学校 阿部 哲久
- (3) 高等学校公民科新科目「公共」における政策形成能力高度化のための教育内容開発
—環境行政法、環境政策学の知見を手がかりとして—
西九州大学 松井 克行
- (4) 総合社会科の理念にもとづく授業開発研究
—高校生の認識過程に着目して—
愛知県立碧南工業高等学校 堀田 貴之
- (5) 高校生は現代社会の諸課題に対する見方や考え方をどのように発展させていったか
—抽出生徒の1年間のレポート記述の変化に着目して—
東京都立農芸高等学校 渥美 利文

自由研究発表Ⅱ—第13分科会 (大講義室)

司会者 鳴門教育大学 梅津 正美
開智国際大学 坂井 俊樹

- (1) 「海洋」に着目した高校世界史の教材開発
—視点を変えて考える授業の模索—
東京大学附属中等教育学校 南澤 武蔵
- (2) 史資料を活用した歴史的思考力育成型授業の構築
—探究の可視化を目指した世界史カリキュラムの設計—
目白大学 田尻 信壹
- (3) 歴史教材としての「成長」と「公害」
—高校新設科目「歴史総合」を視野に入れて—
神奈川学園中学高等学校 小川 輝光
- (4) 「現代的な諸課題」の解決を組み込んだ高等学校地理歴史科「歴史総合」の授業開発
兵庫教育大学大学院 三嶋 文子

- (5) 「歴史総合」における新たなモノ教材の提案
—沖縄出土の古代ローマの銅貨を用いた授業実践—

東京工業高等専門学校 鈴木 慎也

- (6) 歴史教育の危機と「歴史総合」

国士舘大学 加藤 公明

自由研究発表Ⅱ—第14分科会 (次世代教員養成センター2号館多目的ホール)

司会者 早稲田大学 池 俊介
兵庫教育大学 阪上 弘彬

- (1) 工業生産の持続可能性を考える小学校社会科産業学習
—自動販売機の生産に必要なエネルギーに着目して—

三重大学 永田 成文
四日市市立泊山小学校 萩原 浩司
四日市市立常磐小学校 石田 智洋

- (2) 安定供給の認識形成を目指すESDとしてのエネルギー授業の開発
—中学校社会科地理的分野を事例として—

三重大学附属中学校 松村 謙一
三重大学 永田 成文

- (3) 世界遺産を素材とした地理教育・ESD実践の試み
—科目「世界遺産で学ぶ地理」の開発と実践—

筑波大学附属坂戸高等学校 今野 良祐

- (4) 新学習指導要領におけるESDカリキュラムの分析
—「持続可能な社会」づくりを目指す社会科の観点から—

高千穂大学 鈴木 隆弘

- (5) 小学校社会科と「総合的な学習の時間」によるESD実践
—第5学年環境学習の事例—

宮城教育大学附属小学校 三浦 秋司
宮城教育大学 吉田 剛

- (6) リスク社会における防災・減災教育の展開
—防災をカリキュラム化する公立高校の事例研究を通して—

愛知教育大学大学院 伊藤 誉之

自由研究発表Ⅱ—第15分科会 (次世代教員養成センター2号館会議室)

司会者 滋賀大学名誉教授 木全 清博
広島大学 木村 博一

- (1) 国定日本史教科書の中の外国史が担った役割
—歴史教育における自国史と世界史を考える前提として—
上越教育大学 茨木 智志
- (2) 昭和初期における奈良女子高等師範学校附属小学校の公民教育論
—岩瀬六郎の理論と実践をもとにして—
兵庫教育大学 福田 喜彦
- (3) 1947年度文部省教科書局指定実験学校における社会科学習評価の特質
—長野師範学校男子部附属小学校の「社会科学習効果判定」研究に着目して—
信州大学 篠崎 正典
- (4) 新制中学校「社会科日本史」の基底カリキュラムにみる「市民的資質」の育成
—『川崎市中学校社会科日本史教育課程(試案)』(1951年)を手掛かりに—
東京都立農業高等学校 大木 匡尚
- (5) 戦後日本の教育実践における十五年戦争学習の歴史的・類型的研究
—「経年的被害」の視点に立つことの教育的意義—
上越教育大学大学院 益本 卓哉
- (6) 主体的・対話的な学びと有田和正実践
岡崎市立六名小学校・愛知教育大学大学院 恒川 徹

昼食 12:00~13:30

大会参加(事前登録)申込フォームにて申し込まれ、振込が完了された方には、弁当を受付付近にてお渡しします。

I 主体的な学びについての検討 (大講義室)

[趣旨]

新学習指導要領の改訂の基本方針の一つとして、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が示された。そもそも、この「主体的・対話的で深い学び」は、決して今新たに生まれたものではない。戦後初期社会科以来、研究テーマとして唱えられてきたが、具体的な議論はなされてこなかった。そこで本課題研究において、主体的な学びとは、具体的に子どものどのような学びの姿であるのか。また、その為には、どのような指導が有効であるのか。さらに、どのように評価すればよいのかについて議論していきたい。

コーディネーター 北海道教育大学 坂井 誠亮
早稲田大学 藤井 千春

報告

(1) 主体的な学びを促す問いとその深まり

奈良教育大学附属小学校 河野 晋也

(2) 他を契機に、自己に問う子供—富山市立堀川小学校における社会科の実践を通して—

日本生活科・総合的学習教育学会 富山支部 広田 積芳

(3) 子どもの主体性を育む3要素—学習問題の設定・個の追究の保証・追究を支える相互学習—

北海道教育大学附属旭川小学校 松田 隆之
北海道教育大学大学院 高橋 純一
北海道教育大学 坂井 誠亮

II 多様性の視点から社会科を見直す (101教室)

[趣旨]

社会のグローバル化に伴い、社会科を含めた民主主義社会における市民的資質育成のための教育の見直しが求められています。特に、シティズンシップ教育では、市民がもつ多様な価値観やアイデンティティを前提とした教育実践が議論されてきています。本課題研究では、多様性の尊重という視点を異なる形で取り入れつつ、知識・技能・態度を含めた市民的資質の育成を目指す実践をもとに検討を行っていきます。

コーディネーター 広島大学 川口 広美
奈良教育大学 橋崎 頼子

報告

(1) 多元的アイデンティティを育む授業づくりの考察

—社会科と他領域を関連させた中学校の単元づくりを通して—

金沢学院大学 小嶋祐何郎

(2) 高校生による地域行政に対する政策立案と多様性

－市議会議員との協働によるマニフェスト・リクエスト授業において－

神奈川県立川崎高校・聖心女子大学ほか非常勤講師 風巻 浩

(3) 価値多元社会を支える力の育成を目指した市民性教育を展開できる教員を育てるには何が必要か

岡山大学 桑原 敏典

Ⅲ 社会的な見方・考え方の構造と発展 (308教室)

[趣旨]

新しい学習指導要領が告示され、社会的な見方・考え方などの見方・考え方の構造が示されました。見方・考え方は、小・中・高でどのように発展するのでしょうか。また、そもそも社会的なのか社会科的なのでしょうか、本課題研究では、社会的な見方・考え方の構造と小・中・高校の発展性、地歴と公民の関係等について議論したいと思います。

コーディネーター 兵庫教育大学 吉水 裕也
近畿大学 戸井田克己
指定討論者 筑波大学 井田 仁康

報告

(1) 社会的な見方・考え方の全体構造

－開かれた主権者・市民の発展的育成のために－

広島大学 永田 忠道

(2) 社会的な見方・考え方の小中高での発展性

－「効率と公正」を事例として－

和歌山大学 岩野 清美

(3) 5つの futures skills を育成する小学校社会科未来予測型授業の開発

東大阪市立花園北小学校 澁谷 友和

Ⅳ 社会科授業に困難を抱える児童・生徒への支援とは (102教室)

[趣旨]

集団行動や共同作業ができない、集中力が続かない、図表の読み取りが苦手など授業に困難を抱える児童・生徒がいます。社会科授業の中では、どのような状況に対して、いかなる取り組みがなされているのでしょうか。本課題研究では、通常の学級および特別支援学校での社会科授業の取り組みから、社会科授業に困難を抱える児童・生徒への支援を一緒に考えていきます。

コーディネーター 広島大学 木村 博一
筑波大学 國分 麻里

報告

- (1) だれもが自分の考えをもてる授業づくりを目指して
—実感をともなう、実証的な学習過程の在り方とは—

横浜市立稲荷台小学校 田村 拓之

- (2) 社会科授業に困難を抱える生徒の学習意欲向上を目指した指導法
—授業のユニバーサルデザイン化を手法として—

東京都江戸川区立鹿本中学校 杉本 龍

- (3) 視覚に障害のある子どもたちへの社会科教育の実践と課題
—適切な教材準備と情報入手の難しさに着目して—

筑波大学附属視覚特別支援学校 丹治 達義

V 教員養成系大学院改革はこれでよいか

—社会系教科における教員養成の国際的動向を踏まえて— (306教室)

[趣旨]

現在、教員養成系大学院では、いわゆる「教職大学院一本化」による修士課程改革が実施されようとしています。内容教科といわれる社会系教科では、こうした動向をどのように評価し、対応していくべきなのか。よりよい教育・研究体制の構築を目指した早急な検討が求められています。そこで、本課題研究では、先行して教員養成制度改革を断行したイギリスにおける経験に学びながら、各大学院で取り組まれている修士課程改革の実際を交流し合うことにより、あるべき改革の方向性を議論したいと思います。

コーディネーター 上越教育大学 茨木 智志
千葉大学 戸田 善治

報告

- (1) 基調報告*：イングランドにおける教師教育改革とその地理教育学修への影響

ノッティンガム大学 メリー・ビダフ

*メリー・ビダフ氏の基調報告には通訳がつきます。

- (2) 教職大学院における教科教育・社会科教育コースでの取り組み
—長崎大学大学院の教科授業実践コースの場合—

長崎大学 土肥大次郎

- (3) 東京学芸大学大学院教育学研究科・教育実践専門職高度化専攻（総合型教職大学院）教科領域指導プログラム・社会科教育サブプログラムの構想

東京学芸大学 大澤 克

大会参加要項

1. 参加費

(1) 大会参加費

一般会員	: 3,000 円 (事前登録)	3,500 円 (当日受付)
学生・院生会員	: 2,500 円 (事前登録)	3,000 円 (当日受付)
非会員	: 3,500 円 (事前登録・当日受付)	

(2) 懇親会参加費

会員・非会員	: 4,500 円 (事前登録)	5,500 円 (当日受付)
--------	------------------	----------------

(3) 弁当代

第1日目のみまたは第2日目のみ	: 800 円	両日	: 1,600 円 (事前登録)
-----------------	---------	----	------------------

(4) 大会参加の事前登録の締め切り

大会参加事前登録は、2018年10月15日(月)までに、【大会参加(事前登録)申込フォーム】での申し込みおよび参加費の振り込みの両方が完了した時点で事前登録完了となります。期日までに、参加費・懇親会費の入金がない場合、当日受付金額を申し受けます。また、弁当はご用意できません。

(5) 事前登録のキャンセルについて

事前登録を完了された方の参加のキャンセルは、2018年10月15日(月)の13時まで受け付けます。10月15日(月)までは、事前登録の自動返信メールに記載されている「編集・キャンセル画面のURL」よりご自身でキャンセル手続きをお願いいたします。10月16日(火)～10月22日(月)の間にキャンセルをされる場合は、大会実行委員会までご連絡ください。なお、事前登録を完了された方が、大会に参加できなかった場合、後日、登録された住所に『大会発表論文集』を送付いたします。

2. 研究発表の準備について

(1) 自由研究発表の発表時間は、発表20分、質疑応答10分の計30分です。

(2) 研究発表で資料を配布される場合、自由研究発表は70部以上、課題研究発表は100部以上、シンポジウムは500部以上をご用意のうえ、発表当日ご持参ください。なお、大会実行委員会宛に発表資料を送付されることは固くお断り致します。また、発表資料が足りなくなった場合、実行委員会での増し刷りもお断り致します。

(3) 発表会場には、パワーポイント2013を搭載したデスクトップパソコン(インターネット接続はできません)、プロジェクター、スクリーンが装備されています。パワーポイントを使用して発表される方は、USBメモリ等にデータを保存しご持参ください。自由研究発表の場合、第1日目は9:15まで、第2日目は8:45までに発表会場に到着し、データを事前にパソコンにコピーしておくことをおすすめします。または、発表時間内にご自身でしてください。ご自身のノートパソコンを使用することもできますが、機械接続は発表時間内にしてください。接続ケーブルとしてHDMIおよびアナログRGBを用意しています。

3. 「関連行事」の参加申し込みについて

課題研究Iとの関連行事として、奈良教育大学附属小学校にて公開授業および授業検討会を行います。ただし、参加者は事前に申し込まれた30名に限定させていただきます。

4. 会期中の昼食（弁当）について

弁当は、事前登録が完了した方のみご用意致します。弁当は受付付近にて受け取り、教室等で召し上がれます。弁当殻は、受付付近にて回収致します。なお、奈良教育大学周辺には、コンビニ・飲食店はあまり多くありません。また、11月3日（土）・4日（日）ともに学内の食堂は営業していません。

5. 全国研究大会参加時の保育支援制度について

本学会では、全国研究大会時の保育費支援制度があります。制度規定および利用申請書は本学会 HP よりダウンロードし、本学会事務局に直接お申し込みください。

6. 奈良教育大学構内案内図

奈良教育大学構内案内図

